

行田税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞 入選

一番身近な社会貢献

加須市立騎西中学校

三年 斉藤 美空

私たちの身近にある税ですが、どのように集められ、どのように使われているか知っていますか。実際大人でも理解がとぼしい人もいるのではないのでしょうか。税の仕組みを理解し、納めることが社会貢献の第一歩になると私は思います。

最近、税の作文を書くにあたって母に税金について聞いたところ、税金の大切さが再確認されるできごとがあったようです。2、3年ほど前に、父が心房細動で倒れて病院に運ばれました。幸い、それほど重大な病気ではなかったものの、また再発してしまう恐れがあるために、カテーテルを使用し手術を受けていました。すぐに復帰はしていましたがたまに病院に通っていて、先日は体に脈拍を測る装置をつけていました。父のように色々な病気やけがなどで手術を受けたことがある人はたくさんいるでしょう。手術にかかる費用は父に受けたものだと150万〜250万程度かかるようですが、実際にはそんな大金を簡単に払うことはできません。しかし、税金を使うことによって、減額されるのです。これは、手術だけではありません。体調不良で病院に行ったときに、内科で初診の場合実は3000円ほどかかっているのです。しかし、3割の自己負担の場合、実際払っているのは800

円ほど。税金があるおかげで私たちは病院に通いやすくなっていたのです。私はその話を聞いて税金の素晴らしさに驚きました。何年か前に消費税が引き上げられ、今でも増税を批判する声が多く上げられています。私の世代では実感しにくいですが、よく家族が「この商品も高くなったよね。」などと言っているのをききます。確かに税金を支払う額が増えると生活は不便になると思います。しかしその分税金は必ず国民の役に立っているはずなのです。しっかりと税を払っている人が損をしてしまっているわけではないのです。そのために税金の使い方も政府だけで完結させず、国民としっかり検討し合うべきだと思います。そして、願いを実現するために国民も脱税などせずに税金を必ず支払わないといけないと思います。

税金は私達の生活を裏で支えている縁の下の力持ちのような存在です。税金を支払うことで知らないうちに誰かのためになることがあるのです。疎遠せずにしっかりと向き合うことが、社会貢献への第一歩になるのではないのでしょうか。